玉燕小稿

五

源氏物語玉の小櫛　五の巻

相聖巻

いづれもの語ばかり　二の巻　此物語をよべる物語にて今世にいふものがたりといふ事なり　むかしいまの世ばかりの事をきゝ傳へるものがたりのまことをいつはりまぜて世間一般のうはさ伊勢集物語みづからの心うへをかぎりなきまことの事和歌のごとくひとりごちて　こゝは日記　往古

月の光ばかりなり

なほ光よりはるかに　源氏相聖元年より前の事ハ入内してといふこと

さらに遠へとなほめよりハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

光こゝ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

ふかさハ　はゞきる後ゝ思ひて、きれるゝ事し。
人のゝをゝどかゝりハ　ほふ〻らふの文をゝゝいふハ　いと〻　えハ上らふ下ら
ふ物べゝふかゝるべし。
ゆつゝ〻　日　ゑゝゝ〻　病ある後いつゝ　指きふ　病の元を　厚〻といふり
やゝいつるハ　地位ゝてハ　ゝれゝ　ゝべゝ　ゝべての日　時代ゝらゝて　用ふるゝう
ゝるゝ〻ゝゆゝ　ゝバ　地位ゝて　ハ　地位ゝ　用ひゝ　位をもてゝふべきし　指き
とハ　警伸の原注　指きゝ　ゝいつゝ　下皆ゝ。
あいゝ〻　三の巻　仆河　救も　ゝ〻　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　合きて。
かゝゝふふ　何ゝいふ　ゝ　ゝへも　ゝ　ゝ　ふ　ゝ　ふ　ゝ　ゝ　ふ　地　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
のゝゝゝて　おのゝ　ゝ　ふかゝらぬ人　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ふ　目をゝゝむ

ふし。　ほふ　安　ゝ　し　あゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　

よりてなり　よりて人をそこなふ人上ある条ぶそなふ
てハ下ものこゝ[illegible]いへづくしなし
花やう形る日　何海ふ聲花白氏文集にいひ[illegible]此物侍のうち何乃
注ふかやうふかゝ[illegible]ぬぎ又ハ日本紀をどめ文字ハ引まゝ[illegible]
そなゞ中ふまれ[illegible]ハ[illegible]ものとて一ツのんはりハ[illegible]べきもいとど
もおかゝハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]みぐ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
ふ注のゆ[illegible]ふそぐ[illegible]何のこを[illegible]こし大[illegible]いづもも[illegible]注の
文字ふ[illegible]べ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

世俗いはゆる、このゆゑ、稗まかいらぶづくり、黍穂くを引もてるは、
さらふる物なれば、
大くさはやむこと物き　曰　あるくるめ物、俗かゝりけるいふなし。
なぐ、えよりあゝ物べての　曰　仕上かゝ一本かゝ毎ゑとをよゝ、さもいるべゝさ
らでハ云くゝびなる。
ゆゑ物く　曰　つるまぐ紀るゆゑ、ゑひてあるぐちふなるくゝ見ゑてなし。伊海よ。
無別無破あぐ伊きゝ繪るゆゑ、ふゝ物なぐ。
やぐさふゝ生物ひ　曰　更交と、高へ退らゝ、えぐ、翌日もそのまゝ伊あかゝ
さふゝいゝ、えまふし。花ゑふ、衣の伊姿伊改ぐ、くゝいるハ、えぐゝ
なり。さもさべてやぐ、ハ出ふのまゝゝいふさし。俗いふゝハ異ゝし。

ゐぐゝう　曰　仕初々あるくゝ今ゑ物俗ゑふ。毒かゝゑゝいふゝふいへ
ア。又ゐふゝアそ、栗じゑゝいふゝふもいゝ。こゝハ仏微敏のあぐゝと
ゑゝ俗を、きのぐゝふあぐゝ、えゝし。注ゐあゝり。
うち橋　曰　のゝ　稜橋をつぐえゝるゑし。よのつゑ物橋々いゝも曰じ
ゑふゝゝそ、ゑゝ俗をゝるゑハ物きゝゝとハ時ふのぐゝて、いづへ
もいづへと、用いる、ゑへもそ物て伊とかゝをえ物橋まぐゝこの
ゝへうを橋ゝいふゝし。こゝハ伊敏あぐのゑふ橋ふ下伊毎ゐ
ゐめふ切ゝゝゑ乃いるゝふ時ふのぐゝてゝゝゝゝし。四橋井橋あぐ
俗をゝハゝ物べ。ゑ紫物ぐふ井橋ゝゝるハ仏の俗字物るをや。
あゝゝ物ぐゝ伊ゝ　曰　不俗とまゝちゝを、人を迷ゑゝるぐちり。

程なく年経ぬるにて、年代
久しく男、爺にかもけ、おとりわり、位
くハ、詛まで、まさつ、で、くるで、衣のそでに、体さん、あのをふても
あるべし。

こゝろくるくるくる日　さしこめる戸乃、こゝろくかくるとし。

そくくと時を日　そくくと時くくとしひるまて、文衣と迷惑せしをいふ。

くゝ時ぐゝ日　つゝめ、局のかふ、屋敷ちらわるふ、別ふ体ふ所ふま
うきくる局し。

あよさけ　云のゝ　殺きと云、ふ助及のたちく、風ふべくゝび。

あさまくれまで日　此絹を、よくれるかもいきるふもいしして、伝ふく
さしかくねきとけつぶとくとくと時どいふとし。

佐息所日　此和伝の伝をとも考ふふ、細説ふも伝ふく、殺くるでく、伝
ふぐくみなり、絶へだ佐息所とやせりさそ、女佐、更衣時どの外ふ。
別ふ此所あくふ、ふ、女佐、更衣時どふくわり、ふ業、考、保氏ふの
細ふ、佐母更衣ふ、佐母、ふ、ふ、ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いふぢつとのことにて、ぢつとハ即ち[illegible]の祝ぎなるべし。[illegible]ものの[illegible]

[illegible]ぢつとしてゆるぎなし。ほふ[illegible]といひ、又集都

[illegible]みるいみ[illegible]きひぐ[illegible]し。

[illegible]役のゆきうふ日　伺海ふ交加（ユキカフ）[illegible]

[illegible]あらうちるる[illegible]日　[illegible]の里ゆ[illegible]ゆいて[illegible]役の[illegible]

[illegible]といふし。

[illegible]へ[illegible]て日　[illegible]ふ[illegible]ひ[illegible]ゆ[illegible]

[illegible]てもいて[illegible]んど日　[illegible]ハ[illegible]文[illegible]ひてものし。

なきこゞを[illegible]て日　こゞをハ[illegible]の[illegible]の[illegible]を[illegible]て[illegible]文の[illegible]やなり。

此[illegible]ひ[illegible]人を[illegible]べし。

むま[illegible]きに[illegible]ひるを[illegible]ん[illegible]日　こをハいまゞ[illegible]出[illegible]池

ざる[illegible]ふいを[illegible]ふて[illegible]ハかくの[illegible]ひつとゞし。

三位のくゝぬ九の[illegible]　[illegible]花細[illegible]ぶみ[illegible]乃くゝぬ[illegible]ゆべきよ

[illegible]位を[illegible]三位を[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

三位のくゝぬくゝ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

うへの女房日　えべしうへとい事ばあるう近きすふいつか。えへつぶ
孫うへこやづくへこぶみのぐ〳〵。こう紙ち事ばふ書ちく〳〵ばくまる
女房ばいつか。
そく〳〵記十ばく　そくハ又のうえて。又きくもうかく〳〵いふこの何し。
そも秋ふちかて。ちくハまぐ異くて。涼しばがくちよばてろ。
係ていかのり涼しく物わて。こう物ようきばがぐ〳〵や又そく〳〵きく
もうくこし。今もまるくうるあし。くるあふ世何ち。かぐ〳〵八月ごろ
ふのく〳〵いつか。ん物つくべし。凡物ぐふくかムて。くるもはぐ
くるて。ちくハ孤ばて又くく。侯ともしくるる女ち伝
ふをいつかり。孤きふ。弟祭の盧(ハゾ)ちをりていつハ。ぐうこし。うば

層ちとハ別ちるちや。
いづ〳〵ちてきせ物ふて日　物ふてのふもど。一本ふ物きを用ゆ。ちし。
べく物ひて〳〵いふべきば。物ちて〳〵いふ物ち。者侯の中ふも。物ふ西し
くぐる。後ちばいひぐる物ふば。ちるふ車物ちる人の家を呼ふ。ふを
じハ侯ちる物とて〳〵ちう。皆物ひて〳〵ち。べく〳〵ちべきこし。
ちう物く。ちいづくちば祭ちも日　俗ふ。ふなんでと物いふば。ちう〳〵い
ふ何ち〳〵いふこし。侍侯ふ。ふし〳〵いつハ。ふう〳〵し。
まくでつきて日　ゆきつきてし。ふべて禁中より他所へゆくをバまの
出〳〵いつる例し。
みぶ〳〵おもてふ。十二のく〳〵　ふべて人の家も。南向を正し〳〵ちる所ち。南

おもてはさきを河正面とするかゝ也〜を面向の系形〜で面あし
てのをはハ方〜ぶれぐし方角ハ行方ふまれ正面のそ〜ぶを面あもて
といひまゝつるし四〜はは方流ハおもてそいつるも同じ袖後の中ふ
多くるおとし心はかゝぐべし。
とろとふとぐまねあぐつゝ形さを十二のゑ〜こと八袖ふとぐよねゞ
あぐつゝ形きをとゝきんをかもじを為しきをさふ袖ふるべし。
あはまゝふて八袖まゝ或おふあぐつゝ形ふ流ひやとつと返ふる
文ゝといつるハ袖ふ。まてはつとといふ袖よねし。まてもろとふ
ふ更衣の毋と袖ふおし為ふ墨ふおゝ〜まして袖一人〜てぐで
みゝ〜帯はもつふふもえぐと袖ふよし。文衣と袖ふい

つる袖ふ流ぐて〜し。まてハあぐつゝ形きといふ袖ふるべ。
むゝ〜はは形ふふふふ〜へる〜袖〜ふ 日 袖〜袖〜とハ毋ふ禁裏へまる
足袖へとのふ毋へつるし。上の勅ふふ〜ふり袖へといふバ〜ハ袖〜袖
へとふて〜ふふはは毋ふし為ふをもふもふ〜袖ふとぐよねゞ。
あぐつゝ形きとぐふ今ハふふ更衣の形ふとぐと思ひて長〜なりて
ふり袖へ。ふれもふふふもろふとぐよもふし。袖ふ文衣のかさ
ふふ袖へとしといつるハ袖ふぐ。まてハ上の文下のはふふつふ〜〜。
袖ふふ為ふ類ふ流ふ引て為ふ流ふ為中ふかゝ
ふるまぐハふ袖ぐ流ふ為中はふふ〜。ふふまふふ
ぎはは小蔵ぶかゝふもふふ為ふ為はとハふふのふふ

いつるとぞひし。元ちふ。家ゐむちぶを。後くなるハ。ふるし。

かきーうえをもり作る形どうちくふ品をつくるまををそし給へ 十三日の

品給つるさ女とハ。ふ衣毋の品へるまゐて。上の今ちさ妹ちくより。えをり

作るといふやで。その品つるまゐし。さてられ。みづくーけちくへをいつ倍られ

だ品給ふるまゐとまべきふ品給へるくなるハ。字ーー後し。さべくーー品給へ

氣とハ。他のうへをもふくくてつふをまて。こづくーけちくへをいつよハ品給ふる

といふてを形を。後ちけ人ーー氣の字ぢ先をもれまへ人ぞ。なやざ

ちふくぐ日ーこのぢと品つるかくー後るし。此後り。有くーふえくう。

えをおれらのごもりふりを 日 うをより今婦ぶ何し地よりいふり

あくーぢ。さて仕ちを品ハ。おくーえかりて完先ちるちし。

ちをもあり形きんのやをふあどつひーもやらぢ 十日のひ

形ぐハ形んと後後をるし。此ち日の中を形まいつるらづくー。

なくくー 日 此後ちトのいをちぎ多くいふへくまり。此教つをふあくー。

をぐくー後のつぐきけ。あぐやり形くーぢ。此ゆるちくー後ちトけ文をよを

もてゆきて。係る所を考ふべー。そのんけちくをて。ゆをを形くつぐ

きて。ちる時を。ゆぐふくーを多るべー。後後ふ。決あ生後の白くいつ

え。ちの後をちくぐる。ゆがてし。

形いつくーゆけゆを。ぢ 日 或あふ。芳ふ形も。ふまゆくいつるなり。ちて

ふハいくくーふまゆを。ばとかちをくいつる。ゆをふんをつくべきふーし。

をぐくー此後後。ゆくー何くー形き何ゆも。んをいををる形多きぞう。

[illegible]

[illegible]

くつふ結し。後京極殿の冠ハあるて月やうゝゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

物をいひて送り物し。[illegible]

[illegible]

きこえ[illegible]。[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

もむくことをおくいたりぎるがごとくなるやうなる文の趣きをやうもまたをかしかりぬべきかやうにくはだてあるしとそをかしと解釋しうるがごとし。

仕方ありて相傳きたせ給ふ所なりといふも事はやまざあれどものごもしうるように解釋しうる文のそなはりもしかさし。

長恨歌琵琶行は弦亭子院のうせ給ひて　十三の巻　世語を亭子院のはみがうに出給ふやうなる世もとどもさふらひて弦師ふ作せてかせ給ふしまして上ふ女房ふ人さふらひてはあひて相傳きたせ給ふといつてはなほちに仕ふ相傳せうせ給ふしさどあるはそをぞまうでうふといつるはそちに上のは相傳きたせ給ふようにおもうるし仕ふ所なるやうなんざるべバ世語の弦師のうそ

みたようなり。

などやうなるみぐりがたりきこえ　日　相傳ふ義あり。第二三の日は門乃はうへをいふなりとかたりとなんし又義仕るどのみぐりごとちふ。うきざるねどもみぐりがたりきとし。琵琶ふ。うどもはんまてを物ち。今つふ湖月おもはせ面流の後の義をのこ拳しうを。二義をとふもがこしみぐりがたりはふ。琵琶よりかうざるようしもおどやうふ。琵琶よりをつぐきるをもんはべし。女ぎみはてをはうバ上ふをの女ぎみのるはいたでハなどやうをとめいふべくもつうべきて仕ふ。琵琶ふみぐりがたりきこハうべ例の紫式部が母下はんぐへてかくひちせるものし。そうをくハ上の光ふ例ををとりているがごとし。

かくてもおのづから　十七の条　かくてもハ文字ハなく形ばかりまでもなり。
おのづからハさるべきつづけもとつふへくまれ。為義へハかくらべ。
なきあとのたまこうえ　同　わかまくらもとに水仙まらうどふきて世話
ふるどぶるかくし。始と世ばあぶ　光ら後るこよりつるこし。
かくもんしるよそひさうる　同　たべてうるかしとつふ文ハ古
書ふてハ美麗のこと形をどもと。柚俗ぞふつるハしぐ美麗のこまハあ
らで。俗ふきつてくいとつあこみぐまぐ四しきこふいりうて
こ。楊貴妃の面色きるよそひハ。ぶりきつてかくて。ふをや
ふをかくぶりみてつるし。
なつくう　同　たべこ汁をたくこうしるあてやこ

らふきくむつまくいろうこ。俗ふつふこハやゝ異し。
らうこげ形わし汁　同　汁をたく俗ふあいらしきとつふこし。こてついで
ふいこむ。らうくこらうくしハこと形をこ汁のこ
まこよく怪るあふひ語る人。りらくくしハ俗ふつふ柚の功者形る
こたり。
花ぶ柚食ふ青ふ青ふこう　同　うこ楊貴妃ぐゝこちハ花芙蓉柳を
ぶふもるこ汁。文字のかこちハ形こふべき柚もちくこぐれこ
つこし。こて〳〵ふハ例のこぐこし。次のちゐを形べの〳〵ふも同じ。
かこりつこ　十八の条　倩痛（カタハライタシ）こて。かこりこよりえ出て。痛（イタ）くふ
ふこし。俗ふわ矢止（セウシ）形るこつふわこまり。片腹痛こふるハ。

いみしき心ばえなり。

いとおしうもちかづくべき日　拾きゐ・河最押（イトオシレメチカヅクベキ）立才日本紀・今撰・日本紀ゐ才はもゐ波かづくはら先ゑ波ゐかづきしうつくしなし・今はうぶうぶしくしたる才のあはんとはうしだ・しゆゑのかづかうしるかづのんゐるべし・さいつり世流乃めし・今ゐはらうも・かづゑ・しはしるなどいふうぶうし・

はゐ者はうへ者うへ　日　いとでもむうんとハ・ゐはは上まてぶゐ波り

うう日ゐはバまして淺茅生はゐぶゐ・月新のいそ波（スヘ）む・さて

そ波ふうう〜ゑと・日のまむこゑいひて・位（スム）をうゑり・さて文

衣のまはは波をむぶし・ゑ〜やるといふ流・ひぶうし・

うさかはひ　十九のゑ〜　或抄云・陪膳の女房はさぶをうとうしといふり・

世流・ゐ者いと後世はは飯うて・うはは飯うハうゐえび・ゐのやうハ・大

春ゐはは・ゐのゐかぶゐ・ゐはぶもひゐはゐ・しゐ春ゐはは・ゐのゐ

ゑいとうるふゐぶ〜ゑ〜　うはうぶといふゐて・ゐるべし・大春ゐのを常

のは猶しといふゐも・まぶ〜はし・

什はうるふゐゐもうるゐをば　日

うゐいぐ〜しは　日　うはゐ・ゐはみく〜しといひゐをを・ゐ位ゐてみを

いとはいひゐる何し・ゐみく〜しとハ・舌ゐゐて何ゐうて・ゐぶいふゐ

みうて・ゐかゐび・樣ゐゐふゆゐ・ゐゐやはゐし・万葉ゐ・田轉（クミメ）ゐぶ書

て・ゐかはをゐそ波・ゐとうるゐちぶゐゐ・位ゐかゐうび・

いとゞ世ときめきあるべし　日　久しくこそ絶えで、月日へてこそ来ふいよ
いようとくなりまさりぬるし。きべていとゞとつふ用ゐ給ふ
べきよしをいふ用し。
中〳〵つやふ〳〵　北の方　源氏をば坊ふ立て給ふこそおやふくおゞ
をそをし。ほいとうとくゐゞり。
かぎりてそをそ給へ　日　帝の源氏をとさがりおゞ〳〵先せども、うぎ
ひをて、坊ふ入え立給ハぎりるよ〳〵世人中ふし。
れうこゞ　北の方　おべて女法文ちぢいつし。れを世ぬ女をちの
てふをてうゞ。
おゆうどけまゆを源　日　延喜の御ふ多ハみる渤海国ぬ使をて。

る藤ゆをうゞ。ぎをゞ。渤海も。る藤ぬ来ぬ。ハ。国ゆて。ハ女く
いひれをまゆふ。ふゆをいうし。寛弟八年ふ。多ゆりし渤海
の使のる沙を。文徳実録一ふ。る麗國遣使〳〵紀ををうをぬ
時ふうの大使。橘清友の弱冠をて。ゆるをて。おゞろきて。骨法非常。
子孫大貴と相せ〳〵るうり。ゆ〳〵て嵯峨皇太后を生をゆりき。
ゆぬおやゝなりて。う〳〵又をおゝるゞふゞ〳〵　日
源氏ゆを。ぬひふ天皇ぬ渤父をて。ゆ上天皇ぬる号ぬ位ぬ。
ゞ。をうり帝王の相おをゝし。紀をゞをまゝ〳〵帝位ふハのゞ
王位をゞ。ゞ。帝王のおゝをゆゞ。つゝ〳〵り顕るゝろろを
〳〵ゆゝべ〳〵。こゝふよりて今世おゝ人。その顕るゝゝ後をゝんゆゞゝ

くて、いやしくもかうぶきて、ゆひ先ぐしをふかくし、帝王のうまれ給ふ時、ひてハみぐしをうわふるゆゑにやあらん、又帝王乃おかみしわきて面白ハもしくハ又指改ゆゑ白髮ぐしかりなふべき相ありと見へぐも、帝王ハおのれ髮ふかくてハ、をのれをぞ、ぬぐふべしといひし、みぐしをうわふるゆゑにいふハ、帝王ハおのれ、髮をうゑ給のあるを、疑ひて、もしさるゝやわらんといふし、物をもやとわみぐしをうわふべきおのれをしやうふ法しゝ、又をおしぬぐふべしを、補佐の人臣をておのれまさバみぐしをうわふるおそれぬぐひて、古へをべしといへるも、法しさてハ宗祇驚沖なぐもいふなるゝ、又といふなるふ物をぐこゝハ花をの法ぞよろしかりなる。

いろ〳〵記おくり物を　十二の巻〳〵　源氏物語、鴻臚館よりうり給ふ時乃、

うまへの道物なり。

かゝしこきれんりやゝかさゝ沼おかをて　十三の巻〳〵

みぐしのれんりゝ世れる沼、もし〳〵髮をふも物さバ、人の髮ひなぐ出来てかゝりてはさゝえふよろし〳〵かゝじゝ考へめるゝをやまやさゝと、ゝいるもかゝ〳〵しひをもものとハ氣もゆひよきゝんのゝ〳〵ぞまさし〳〵の且多る、髮をゝかふ法ゝ〳〵きゝんのゝ〳〵ゝどもあも、物ゝ世物ぐゝる、ふも、などの系とゝ、系考ふる沼、ゝんのゝ〳〵いるゝぬぐひし、さてゝ物ゝる葉のおゝんのみぐしをうわふるやゝゝんゝゝ中せるゝがれゝをづゝ、あぐ〳〵ゝ、ゝ考へ、ゝ考へゝ、ゝ考へゝ、ゝ考へゝ

又とおぼせるし。細流ふ。和國の相人もかやうふやはしとつたへハ。ゐぐ
又。これを相人よんき結へうふ。つたへ。もし。実ならおんのこゝ
てハかゝ。こきたんうといへるも。用ゐ。おぼゝ。ふるゝといへるもか
ゐなど。事はれんうがむくへ。ゐふことやはおゝしもいつハ。おまけ
おんのゐといつを所ゐる所し。さておゝいふ。おゐきてゝもいつるし。
きはてゝふ　日　結きふ。毎際し。ごの字ゐるべしといつるハ。むがてし。さてハ
きゝてゝいふゝ。ゐしむ。ゐゐ際殊し。おゐ。ゐるべし。
内侍のすけ　吉はゝ　上ふゆぎひの令帰が内侍のすけのすし結ひ
しゝいつゝ。日人しるべきゝ。
三代のみやづかへ　日　河海ふ。此光孝ハ相當光孝天皇を典侍

詞ふも。三代のゐやづかへ。いつゝ。光孝字多醍醐ゐるべきゝ。ゝわ
多御。乗花細流ふ。さて三代ゐ。ゝ。ゝ。ゝ

きべて。ゐ〜兼るゐゐゐつき。ゐ〜とハいとゐゐ定まり物色バ。ゐゐゐハまぎる
とハ〜とゐきんを。後ゐが〜ゐ組つゞきの格もゐゐ丸色儀まる芸ゐゐ
ゐてハ。行ゐ物〜。字〜儀まるし。此丸色〜。ゐをつゞべ〜。
ゐよゐゐ〜 ロ 光〜ゐゐゐ〜ゐ〜ゐる組まゐ。いづゐもゐ〜。ゐの物〜儀
ゐ〜まて。ゐまゐ〜ゐゐゐ〜ん物て。みづ〜ゐゐ文ゐゐぶゐゐ。ゐゐゐゐゐゐ
ゐゐまゐ。ゐゐゐのゐ〜いふゐゐのゐゐゐゐゐ。此ゐハ必他ゐ対へゐ〜
ゐ〜ゐゐるゐゐゐゐゐふゐゐて。ゐゐ〜へゐゐまゐゐハゐゐまゐ。
ゐよゐ〜ゐまゐゐゐゐゐどやゐゐゐゐゐゐゐて。ゐ〜べて〜ゐ〜ゐゐまゐゐゐ。
ゐゐまバ儀ゐゐゐが〜べつゐゐいゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐハ蕨童の多ゐ物
ゐて後をいまゐゐまゐゐ物ゐゐ〜物ゐゐゐゐまバゐゐゐて。夢の

ゐんがゐ〜べつゐゐゐが〜ゐゐゐゐまゐゐゐゐゐ。此ゐ物みゐ物ゐゐを。
ゐて丸べ〜。ゐゐゐが〜べゐる所の。ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ。
ゐゐまゐ。よゐ〜丸まバゐゐまゐ〜べゐゐゐゐゐゐ。ゐの海が舞
此世 舞越 閑雅 ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

月おもふ孟として出るはかをるひぐれて未をうゑし此ぐ
ひ多しゝ心はおくべし。
わやゝくよそへまくつべき　日　或おもふ菖蒲は相蒲、文衣ふよゝ似る
まへ見バ源氏のはかるもよそへいふ屋きそちゝ行ふゝし。といへる
ようなし。朔月説そいつみしきひがゝし。
いとようふゝりしゆゑ　古六はひ　うせふゝ文衣のつゝつきまゝ行ぐ
そゝ源氏ゑとよく似てきゝとのゝまふし。朔月ふ菖蒲と源氏と似
ひてといつふ行そぐ。ふゝりしはそきいとゆるきのそれぐ更
衣乃ゑ行ゝでハうゑつぐ。
あひてゝゝふも　日　あひてハ先も似てゝふきて。菖つぐはは乃。

源氏ゑゝ似てゝゝふよし。朔月ふうつきぐちはきバいひ
あひてゝゝふもそゝといつるふるぐりおのもそぐもふ行はあひ
つゝ代後ふゝゝ思へぐきこゝろそはあひてゝいふそもゝふハ穂
ゑゝぐ又ゝゝふも必菖蒲へうるゝ何とゝするふ菖つぐは源
氏ゑふいひあひてゝふとハのゝきふべき何ようゝぐりゝ又ゝ
ふを源氏ゑへうきてゝん也ふゝいふそいぐし菖蒲へのゝま
ふは何ふ源氏ゑのゝ代ふとのゝまゝんゝ俗ふゝぐべきぐし。
ふぎはゝゝぐゝ　日　よそへて物ゝゝしふゝいゝんふ似ぐはきふわ
らぐゝし上ふゝやゝゝよそへまくつべきゝゝうをうきて物ゝ
ゝゝ。さて此ゝゝ上より付文のゝ代ゝゝていぐ。うせふゝ更

衣のつゝきまゝおぐ。此係氏といとよく似てきゝしかば。又義つぐ
の係氏と似て。ふるふるしかゝるもいとやゝ。あるゝもよきへいふを
きゝゝちはきれど。おちよきへて。あゝやし。ゐゝいそむかおつゝ
りかゝるふあゝびゝこの給へるし。
すゝ。ほゝ家給へきば 曰 ほゝ家ハ。伊せつるいひつるなどはつまし。ま
ゐ。ほゝてゝむべし。若ハあゝびゝ。曰をゝゝるハ。ゑゞゝし。
こよおりうんよせ 曰 他の女房更衣ゝかちとハかゝゞりかまゝわて。
藤壺へきんをよせなり給へし。
ゝゝゝ 曰 ゝゝ本の文ハ。指きの侍乃めゝ。給ゝ。
如給ゝつゝひゝるゝハ。側ゝゝ。

おかやきゞふほゝゝ曰つゝ係 曰 系ゐの法元彼の時ゝ。ゐゞおかやき
ゞ方はゝ。定まりはゝふほゝゝまりし。さてハ祭おろそかなるゝ
もゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝをゞるはゝ。ゐゞはゝゞまはるゝ。
ふゝゞへゞとまはるのゝ。ゝふんをつゝゝハはゝゝゞゐやうはるう
ゝゝはきものはゝバし。ほふ系ゐの法元彼ふハ。念入ゞりしゝといへ
ゐハおゝゝゐゞつり。

厨 六七はゝ ゞんゝよむべゝゝいつるハいゞゞ。ゐゝよむべゝ。一本
ゝハゝはゝゝ候家ゐゝ。ゐのゝかゝるをや。
むきいつゝ 曰 加冠の人をいふ
みづゝ 曰 指きふ。何髪臥 外記。今指此二ゐ出ゝゐ係をゝゝゞを云。

大納言ゝ人ゝ侍ゝ給ふる日　こゝゝゝ大納言殿の御人の理髮の役をつ
とめまゐらせいとゝ殿ハ理髮ふりかゝる役わるべきゆゑなりけ
れども殿ハこゝゝゝ人ゝ殿きんを、ゝゝ人ゝとハ字ゝ法師なる
理髮ゆゑ上ゝ殿といふべき理なし。もゝゝ殿を法師なりけ
れ。大納言ふゝ。
殿人乃とかゝるはし所ゝゝ人の下ふ理髮をいとる役のゝしがあり
ゝるゝいづれとかまれ。ゝ役ゝ行ゝ仕をゝゝもやもぞ。
法やゝゝゝ

ゆもとびつるゝ、　九月のひゝ　三の旬のぶりゝハ、法白の下へふくめゝるゝ
まゝて、そゝへゝ殺るてふをそし、ぬくゝんゝるゝとハ、業好食ゝ行きゝ
ゝ、作せめゝゝ、もとゆひふ者き蓋沈こゝんをゝんゝいふをしかゝく
のゝゝゝえゝれゝ、ゝもゝ、ゝゝゝゝ、
ゝゝまゝハ、ゝゝ　日　ゝゝゝハ、賜物を大だの夫らゝし、ゝゝふハ、ゝ大者を
そゝゝて、ゝて、ゝゝゝゝゝゝし、ゝゝゝるゝしそのゝゝし、
こゝゝ　日　ゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まる申ねるなどゝ和し給ひしゝ時、いふよりまた始めへ立うりて、その
まゝしやう況つぎ〳〵ふ侍るゝし。
あのゝとゝぐゝしう　けしやふでもゞ況えゝんはべし
いひゝゝまた給ふそゞ　源氏殿のそべての始色めとゞあて、云人の、その始
ゑちひをいゝきるふいひ京つし。えるゝいふふ、まゝ紙といてるたの
づゝ〳〵文のふりひまり。
いとぐかゝ侍ちゝぐゝをを　いひりまたまふ始色めとゞおふきあまち
中ふも、ゑふいゝゝ悪びあつるかゝろへすゆきし。いとゞといひ、まへい
へる況ふべし。かゝ侍といつる侍きゝのゝゝろへすをちまふ明ふみびう
らおゞせるんをいふ侍るれゞし。和侍の地よりいふまはゝゝゞかゝ侍

きゝゞゝいふよりゝ、名をやはゞうんといふまでハ、その時ふ源氏君のみ
づゝゝおゞきるんをいつるし。宗紙侍ゞゞかゝ、ゑちゝゞゝいふを和侍乃
地の侍とんはゝるかゝいひ京まと紙あふとゞをば始色のまあるかゝうざ
ゑまふいつるハ、えゞゞとし。きゝゞゝのきゝを、河海ふ、逸（キ）数奇（スキ）ゞ侍
きゝゝ紙ゝまふハ、えゞゞとゝ侍るこゝ、結きふゝゝまへゝまゞゞゝ。
なよゞゞうふおりゝきむとハ始ゝて　実ふおゝ紙すゝゝふきゝゝゞ色
ゝかゝ生ゝかゝ始るゞめゞゝきゝ、ゝて生ゝるハまゝる人乃えてまゝふ
ゝゝ紙んゝりいるし。
まゞゞ申ねるゞふ物ゝ紙ひゝ時ゝ日　上の、爰（ハシ）侍のそべての侍を
ゝきて、ゝゝ始つゝゝまりゝすゞと紙ゝまより結まゝゞゞるし。

まぐるいふも。その格へ立てていふなり。なぐいふも。なぐえつ
うとを。ゑろゝいつる泪し。袴ひゝ結ぶもの。をべて苦をゝるを
俗ゝゝ結びし。結ふ代を吉結ぶ。袴ひゝ結ぶ法をいで。
うちふのをゝうちまぐ足乃る　日　うまとやで結文。中ねるぐふて袖ゝ結
ひゝゝゝ乃を。ゑろゝいつるし。此者結の。ゝふハかぎゝび。
代物忌　日　河海ふ引きゝ儀軌のゝ。結きふ代ゝ人ゝゝがおゝ。ゝ乃
儀軌ふいへる説き。物忌といふれを。簾結ぐふつゝるゝ行るみ乃て。ゝ
を沢やゞて鬼王の名ゝして。造をゝるもの。いゝ拙し。
いゝぐ結ぐぬ　三の云ゝ　上ゝ。四ふのをゝふゝひようし結ひてゝ行ゝを。
ひ行ぐハ代ゝ結ゝ結ゝ。ゝ四ふ書居ゝ結ふし。ゝ行ぐ

ていゝぐといふ泪を。みるひゝをゝ代ゝをえべし。
あゝいゝのふゝ。あぐつゝ結ゝ　日　をべて。おぐつゝ結ゝ。ゝ乃ゝ結ゝ結
ぐいふをハ。結を結ゝをふゝ。ゝゝ。ゝゝと源氏ゝ代ゝ久ゝゝ。ゝ結を
ぬを。ゝゝちぐふ。ふぐゝ。ゝゝ。近きゝゝ。ゝ乃ゝ結ゝ。ゝ泪ゝいふ。
源氏のゝんを。ぐつゝ結ゝ。ゝひゝふゝゝ。ゝふをゝ。ゝ結ゝ。
代ゝのぬぐゝ　日　禁中ふて。源氏ゝ結ゝ。ゝ乃ゝ。
代ゝを結ふ　日　をぐゝつゝをゝ。ゝとハ。ゝゝふ。精出ゝて。ゝゝゝいふゝし。ゝ
ゝいふとハぐゝゝゝゝぐひゝを。
者のふゝぐ結ゝゝゝとかゝつぎ結ふゝゝハ　日　ゝゝ泪ふ。日の云のを
みゝゝいつるハ。ゝ代ゝ結ゝし。乃ゝ中ねのゝゝゝし。男結女の体へ。ゝふをゝ

むとゝひて、けさゝうハ、毎ひさ毎ゝいつてくし、されがつゝうとかゝ
づきゆふといふも、なかゆをし。
をゝ〳〵ゆちおくもぞ　日　かゝゝゆゆふつひゝをゝ〳〵ハ、畑をゝ〳〵つめ
て、ゆゝうゆゝいゝび、ゝうゝふ、定をて、つの河し、話きゆ、ゝうゝいふう
ゆゝうゝとゝいつる、よゝ、つゝとゝう、こゝもゝ〳〵つゝて〳〵ふ立おくもぞゝ
ゆハゝ〳〵び、大鏡おゝゝゆゝとし、ゝもゝが信ゝゆゆゆゝうゝとゝいふゝこゝれゆ
よゝ、つゝとゝう、つゝゆゝう立おくもゝもせゆし、此次の文ゝ、殿上ゆもをゝゝ
をゝ人ゝぞゝ〳〵ゆふゝとゝゆゝるハゝゝゝゝ〳〵ゝひゝぞゝるハゝうゝゝゝゆもゝぞゝ、をハ同じ
ゝゝゝ、殿上ふもつゝゆゝうゝ人〳〵もゆゝいゝとゝいふゝをし。　ほふ信定のんゝといひ、
或ゝもゝゝゝゝゝゝをゝいつるハゝゝ〳〵ふゝゆゝゆゝぞ、又光ゝるに漸又

頗ゝゝゝいふゝゝめゝ〳〵とゝつゝるゝもゝかゝゆゝゆゝぞ。
むつゝをゝゝ　日　〳〵ゝゝゝゝゝゝ

まちがわかくん夕暮れがたのこそ　日　夕暮れがたのまちがわかくんみこそ
とつかまつし。まちがわハみのまをといふも。夕暮へうまる間のハわ〳〵びさて
まちがわかといつるハ。まりよりしわ〳〵ハみちかわで。さんとうをもんまるを
いふなり。
おわざうれる　日　山ゑハ百姓ふうしふさとしいふ云つる。そもそも日じく
笑ひまバ。もとハ行ふさとわときんを。さをを。俗の考使ふさうといひ。
つひふあふをを。おわとをおわしまるべし。考使ふいふをを。
又俗ふぼくひろみぐうぐ〳〵ふうがく〳〵ぬびひおわ。
かをはしづるふ　日　こをハ祝ふんを祝ふふ〳〵をべき法し。ま少ふ。
上のをんをれをといつるハ。ふ〳〵へ〳〵ふ云れるふ。ふるふ〳〵ひてハ。を

んををバのかをを而をて。ふのそび。ふをを。波の法ふかをそざ
をバし。をんをれをといひをてるをを。ふをを〳〵ををていつる法
わをを。をひを〳〵し。
ををふてを　日　苑をふ。足下ハ。人をかしづく何し。拭きふ。をを足下とん
はるハ大り法しといつるがを〳〵。ををハ其和中。今の言ふも。人をむ
ひて。をを俗（ソコモト）といつるふ日を紀をや。
ふをうをべをかわををを。ををまふてををつをかき　日　はをきをふ〳〵後きわて。
てをを〳〵をかきをををむべし。をををみをを〳〵をふ。を法をををかくし。うき
のかも。ををべを〳〵陪（スミ）てよををべし。陪をハむがてをし。拭きふ。うをべをい
はををふ。万葉の。うをへををきをいふ何をして。一つをををせるハ。ふみしき

ゑがくこと、うとはつ〳〵異好きなや。さて上の女のうれさ〳〵と
こゝろより不定の嫉し。おなじぐ先といふ名用も。さやく〳〵あ侍の
うちゆ孰虎かゝ〳〵り。
よ侍しきも　日　さべて地侍ふよろ〳〵とつるハつゆふいふとゝかゝろで
へこゝふして。こゞふゆきさるゝほどゝこゝて。侍ふか〳〵んぐいよきく
いふかゞめこと。侍文て可しといふこゝろぐへし。
そのうこゝ俗こゝろいで年〳〵　みりひく　そのうこゝとハ上のまこゝまかき。
きわふ〳〵ゝつ〳〵へうちし好どこゝこゞひきこゝていふし。そこもや
どほゞふ太てんよきハ美き地ゝとゞし。侍ゝば。こゝる地こゞと
こゝ俗て。えゝと出むこゝる時ふ。そのえゝこゞひふも偏モル中ゞ記かゞふ

よゝこゝるハ。又まりゞ〳〵こゝし。
ゆゞこゝ侍ゝえゝこゝ〳〵あやうゝと　日　こゝとハ上のうこゝべゞりゝ侍ゝ〳〵めゝ
ゞひこゝ如ゝ。多〳〵行ゝこゝこゞこゝいふし。ゆふ一種みいゝゝ〳〵。
あひさきこゝりこゝる害ゝ侍ゝうち好　日　侍ふ。宮の内ふこゝりてこゞつゝる心
こゝいてハこゝゝゝ侍ゝこゝ。宮の内ふこゝりこゝ〳〵こゝるふや。こゞこゝ侍ゝ。
あひこゝこゝりゝ侍ゝとハ。年ゝふ〳〵て地こゝ記の文〳〵ゝ記をいふとかき人を。
ゝこゞりゝ侍ゝ〳〵いふもはゞ。こゝてこゝりゝ侍ゝ〳〵ゝ。宮の内ゝつゞまいふ
こゝ。おのづゝ〳〵ゝ文のゝこゝ侍ゝあひも。こゝて宮の内ゝいふゝ。ゝ記ゝ侍ゝ侍ふ
こゝりて。人の女ゝ祝の表ふゝ侍ゝふほどをいふ。侍ふ。宮ふ宮の内ふゝめ
ゝふ〳〵ゝふゝふゝ〳〵。

おわざき　曰　おわざ〳〵おわさうあいらうこゝろ〳〵おわざ。若おわやうるさ
ふしてゝ。そのふかのく〳〵つゝうかたわらゝ。
ゑ〳〵ゆゑづきて　曰　行ふまれ一藝おどをバ。たていふもいづるし。ゆ
え行ふゆゑづきてと改ゝうゝ。うゝもゝ。うゝひそびて。ゆゑを
はゝ。ゝうゝとおもバ。はゝ。ゝてゝいふゞゝゝ。ゆゑといふゝゝもむつ
く。はゝとゞかゝつゞ。ゝべく。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。言はゝとゝ
ゝ。此和俳ゝゞ。ふてハ。ゝおゝゝ。ゝゞ。此和俳ゝ。此和俳のこ
ろのやう。ゝて。ゝべきし。ゆゑといふゝゝと。此和俳ゝゞ。ふてハかゝ。
ゞ〳〵と故の字由はゝ。ゝゞ。ゝゞ。藝能ふもゝゝと。ゝゝふきてふ
もゝゝと。ゝゝふもあと。ゝゝべきゆゝはゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝ

とゝといふ。
まゝびいづゝもふ　曰　ゝべてゝゝゝ

西行人をかくるとこれかいつてふ。對へてえべし。

和よりいひそかにそ　曰　係くこあるかをかりていつ。

そこにさくさくめつらくそも　曰　きべてきぐむとハ。和俗かてハ。和を後ぐるを

いつり。即チ西定といふなり。女の形ハ後ぐるよりし。俗ちふ。一ちふ決

定ちとのこいつふハ異し。

きくふらきす　曰　古代女はよりれわきに用いつるし。ほふ。当時の人のう

へをいふゆとこいつふハるづり。

さハふへぐ　曰　此羽ちいづとかでも。俗ちふ。行といてもといふとし。

やむこ形き　曰　此云ハもとなかやぐりふちぐきとりいひて。もぐ

しがくこいふ曰ぐくて。安止弟し。ちれ人をいつふも形やぐ

ちふしがくきとちりかをるし。ちを須ふ惱ス形きしといつるハむぐ

てなり。

ちりぐくか　曰　そもくかし。ちハ形りのぐもどちくと。ちとハやむす

ちきちくとそもくふちとちりてし。ほふ。ちぬぐふひとを形

てくいつるふちぐり。ちりぐくふハちるぐのとかをりつ。び。

きぐくくちて　七のひく　俗くはちてし。朔月ふ師説て出ちる法。

ちつべし。月形くまぐくり。

宝くちハりつね　曰　宝ハ異ケて。りやくかるし。後くき法。あやく

ちつふふいへど。即。後くかるぬふて。ちてつふちりちるかくと。ちを

後のるふちかぐくび。和のちとちりかるぬを。ちくくハあるび

といふなり。そを和文にかなをまじへたるなり。又わづらはしき事、文章乃
ちろちひちり　同時のまねびいふ言葉。文章乃
分係をさして、いつるごとくかも、ゆゑもとど、上ようの位のそうびを呂ふふ。
ふかく和文ハうつし。
ほまゝ　ほかんぐちめ　同　位ちふちなじをは公つゝいふとし。公つゝ
いふむうりあし。ぞはあぐゝも何も、公つのやうふもいうなをいふ。次の非参
議のうゝとお対へてゑんべし。ゑをふ。他のちなほりるゝんゝいうハ。云
のかはをあをかふべし。始めて公つふかりゝるあゝいうハいうゝとぐ
へりとそハほまをわりり出るえぐゝし。ゝゝ何ふ。ゆゝハ多目好き人乃。
公つふちりゝるびいふゝいつるも何ぐゝえぐゝし。

非参議の三位位ぐゝ位ぐゝとして。公つふ
同　いまぐ参議うゝ位ぐゝとして。公つふ
わゝぐる。之位位位の人をいつり。位をよハ位をうけて。三位以上をむ。
公つゝゝちるゝゝとうゝとぐ。之ハ官ふ和て。参議以上を公つゝとして。そ
出ふ対へゝいつるし。ほまゝ。ほかんぐちをゝとも。非参議のゝいつる。
位の勢ひをあて。えべし。　書表紙なかふ。三の字ちゝゝゝて。そゝふ
よれゝふハ。ぐゝゝし。うれゝび。ゝろゝゆるやふ。三位位ゝいうべき位し。
位位ゝかぐりていふべきゝろふをいうび。
やゝゝふゝ　同　ゝつふわゝざれぐゝうびんやゝきし。
ゝふちうちふゝゆゝゝゆゝて和ぐゝうゝ　同　よのあぐゝゝちをゝかうざれぐし。
ちべゝふぎゝゝゝ位ふゝ　同　ちべてゝハ上の文位のるゝ和を。合をていり。

ちゝ人のいとむやうふゝ　日　今るゐのいつはさゝふゐぎつゝしたをよ
といふゐハたゝざる物をまゝ言をねぢゝて作をるゝ中ゐの源氏ふ
ゐし源氏ハよくゝろをえ給ふべきゝゐ物ふゝるゝもえぬゝ人のいそ
んやうふゝし　ゐこのゝちゝゐ人のいゝんやうふゝいふにハむづゝし
ゝゝゐもいそび　日　世間ゐ法のうちゝたゝをぢゝゝゝもゝゝんもむづゝ
まじゝとゐる下へうきてんゐべし　さやうゐ所ゐ人ゐ行すもうちたゝひて
そぐゝゝゝんも　もゝゝゐ物ゐべきゝゝ物ゐバゐづしゝゝぬを　まゝて
あゝゝゝんゐ　さゝふゐもいゝゝびいふひゝゝむづゐべゝゝし
うちたゝひてそぐゝゝゝゝひゝもも　日　けうちあひゐ　ゐ女の　身ゐ物ふたゝひの
ゐひて　何ゐもゐぐゝゝゝいふ　上のうちたゝひゝハゐをゝゝろ異ゐり

ゐゝて　ゐゝも　もゝゐ物ゐ　ゐゝの中ゐ女のゝゝし別ゝり一
種ゝりハたゝゝゝ　ゐゝ　ゐゝて又上ゐたゝる傍ゝハ　或ゐ　もゐの　ゐゐハよ
ゐゝゝ　時代のゐゝゝ　ゐゝ　或ゐ　ゐゝよゐ物ゐ　ハゐゝゝ　もゐの　ゐゐ
ゐゝきゐゝゝをたゝゝゝ　ハゐゝゝふうちたゝひてよきをいゝる中ゐ　ゐゐも
ゐゐ中の所の一種し　上ゐ上の所をいゝゐゐゐ　ゐゝひゐゐゐゝゝ　ゐゐ
もゝゐ所ゝハ　ゐゐゝゝゐ　ゐゐゝゝゐいふし　もゐのゝいふんをつゝべし　や
ひて物きゝいふも　もゐの所ゝ　ゐきゐゐ物ゐ　ゐゝ　うちたゝひゐゐいふし
上ゐ上のゝ　ゐゐ　たゝゝゝゝ　ゐゐゝゝ　ゐゝゝゝ　ゐゝゝゝ　ゐゐ
たゝゝゐゐ物ゐゝ　たゝゝゝ　ゐゐ　ゐゐ　ゐゐ　ゐゐ　ゐゐ　ゐゐ
ゐゐ　ゐゐ　ゐゐ　ハのゝ　ゐゐ　ゐゐ　ゐゐ　ゐゐ　ゐゐ　ゐゐ

がゝといてはゝ時寒ふれふぐゝといひゝらゝにそうゝびたへれ
をいへるこゝろなりまたはゝ作り物語なゝ惟光良清などをおきて和ハ
きべゝくゝ物名をバ作りびて名付つけぬ書をなふゞゝる出
家しなふがゝの流をふゞゝる伝知あどいつゝるゞひも。その
名をいつべきをかゝいつゝ。うつゝの物語あゞゝ作り物語あゞゝ。皆人ゝ
のゝ作を作りるかゝ。人をむひていふ所ふも皆名をいつゝぞゝ。
上ゞ上をうゝ書き付りぬ　同　まゞ此所定る。そゞ先より続てまで。
きべゝ皆。もゝゝ中ゝ所の女乃るし。そゝゝ物語を上の件なる
所のゞとゞもとゝうゝとふより次ゝゝまでの條ゝをうを
ているゝて。又ことゝゝ下の條ゝをうまでへも。おのづゝゝ物語

なり。さゝバ此語を以て。此所定る。みな中ゝ所の多ふて。上ゞ上と。
下ゞ下とハ。ゝづゝゝざるこゝ。ゝるべし。そゞ名ふ中ゝの何ゝ。人のゝ
るゝうゝるもなもバゝゝ。中ゝ所ふゝん。ゝ下ゝきゞゝいふきゝふ
るもバゝゝ。此語のやうをもふふ。もゝゝ中の所と編べき。下ゞ人ふ
ゝるゝし。かゝて中ゝ所のゝを以ふゝうゝふおのづゝゝ上ゝ下るゝん
ゞへもこゝりてゝるし。さて又上件り。物のゞきゞゝうゝの條より。
もゝゝ物名所よのおゞゝゝ。ゝ條ゝハ。女の身ゝ所の稱ゝを。
もゝゝいひ。こゝもゝ下の條ゝハ。ゝ女の。ゝおきて。ゝるゝひのゝ物
ゞをいひて。これより上ゝ。ゝとゝ下ゝハ。所定の竪ゝ緯ゝとの
めゝ。ゝりゝこゝゝ物ゝ。ゝをつきて。こゝふゝれゝ味ふべ

し。ぼやぼりふんむを。俗をぬし。ぼりんといふてるほいうたを
ぼちりかし。
業ぶりと人うちもどうう　日　花ちふ。これそ下の品の人をいふもとわ
ろ。ものぐりとてもみる中ぼ品のうちし。
そぐ〳〵統〳〵ものして　日　葉の門といふ〳〵。そぐ〳〵ぼといふし
ちぼうおいう〳〵　日　武士が身上をちりて〳〵いるいえぐてし。
かるかぐ。ぼても　日　ものひるづふ一つ二つのかぐりんぼもいふし。
細信ふ。ものぼ中ふも。ものぼ品まべき弟し〳〵わるいうわそぐ。
まるかとぼて　日　中ぼふものぼりて八〳〵いふてし。そぐもてきぐを。きう〳〵
ふりぼ。ぼぐきものぼもて。さるべし。

そてぐ〳〵ぼものをぐ〳〵て　日　ぐもぐ八やを俗ものるべし。ぐ。ぼて八ぼ
えぐ。ものぼ俗ふをぐの下ふ。ものぼ品ものべきものし〳〵ふ俗を加へて。
ものぼ品ものもぐもぐ。ものにものぼ品ぐ〳〵し。
ぐや　日　俗ものふいやものぼ〳〵ものぼ品ものもぐ。ぼ俗いぐもものぼし
かぼぼものものぼふふぐふ〳〵　日　ものをのをハものるものをのものし
ものぼぼふつけて　九のもの　朔月ふ。俗説ものて出るを俗。ものふかるも
ぐいぐぐし。ものぐべし。ぼ俗。弟ぼ人ふものて。ものふものるものし。
かしものものも　日　俗俗ものぐ。これものぐかしこれ人ふものもものいふし。
ものぼものぼものう〳〵　日　人ぼものるものきものし。
かものハ下ふものものきものも　日　朔月俗説。ものものを遠へを。ぼ俗。花ものふ。

天下ハ、ゑろ〳〵といへども、佞人カ佞舌をそむきバ、中〳〵やまぬなり。
せぞ、ゑれ中ハ、ちゅうぶ一人のえう〳〵ひきゝバ、ゆづかるぬく〳〵
て、ちゅうぶ人、ひわるゝハ、ふうしろ〳〵ゆるゝいふべし。とうるぞよわき。
下ハうみ〳〵ゆびきて　曰　聖徳太子憲法ハ、上行下靡（なびく）　ちびくゝ隨（ながう）
ふまて、ゑくハ、上ふ〳〵ゑる人の作をゝまゝ、ふぶ行へぞ、ゆ〳〵ゆるゝ〳〵し。
せぞきゑゆ、うちの　曰　せぞきとハ、天下の政をゆ、ゑきふ、射へていふし。ゑき
ゑゆ〳〵射へていふをゑわ〳〵ぶ。
〳〵ゆらぞわ〳〵かるべき去ゆぞ　曰　ほふ、ゑ内も、天下のゆく〳〵ゑぬぐのを
〳〵ゑてといつゑハ、ゑゆ、ゑ〳〵し。ちゅうぶハ、緊要ゆゆるゆをといふし。
ゑ〳〵ゑ〳〵ゆきを　曰　下ゆ、曰ぶ、ゑゑ〳〵といふ、ゑへ〳〵ゑ、ゑ、ゑ。

曰ぶ〳〵ハ、ゑゆ、ゑ〳〵ゆ、ゑ〳〵　曰　男ゆ〳〵ゆをて、ゆゑゑゑゑゆ、ゑ〳〵ゆ、ゑ〳〵ゆる。
いゑとハ、佞ゑふも、ゑゆ、ゑゆ〳〵ゑゆ、ゑゆ〳〵ゑゆ、ゑゆ〳〵ゑゆ。　ほふ、天下の政をゆゑて
賢ゑ吏ぶふ、ゑ〳〵といふ。ゑ〳〵ふゆゑゆ、ゑゆ〳〵ゑゆ、ゑゆ〳〵ゑゆ。又、菱上ふ、ゑ氏のゑゆ、ゑ〳〵ゑゆ。
ゑゆ〳〵ゆふ　曰　ゑひゑぶ、ゑゆ、ゑゆ、ゑゆ

さまざま何ら　十はひ〜　さまざまくはんふらあるくいつふたくわて
いつり何らハ行ふそしんふてあしそうはふいへどもさやうはさびし
も如ふらハゆうかくんのさし　湖月抄説ハ何らくいつる河の勢ひふ
ふがつり又くさ河ふ何らを行やうやくさ中ふ足ふる時ふくくはし
くるハ俗さし

んうりみぎび　日　なびきやうふ品ふをいふ　ほふくさびくふひるぶ
くくとうるびくいつるハうれるびる

ふうはきくふひくまへぬぶふ　日　細流ふくさて句を切て　んを上へうまて
ふるしくはうるぶめしくふくうが縁き身ふぶふ如ふひ行ふびまて　ふうち
のうみきれえうひふくいふし　ゆくさ河ふはるゆくく女を足はつむる

ぶふくいへるハふるがつり　そそ西をくふ思ふを底くふはつむるさふを
ふくいつる形ふでさるくさにそはうびまべてふうはをくいふ河ハ云の
布ふさハ前の狭きさより出るはども風ふくさハ水ふもふうび
くハ半ふ人ふ身ふ持ふ（オモ）くふくて為ふすくふやをかくねをふくろをく
考ふいふふくくさふて書をえうびふふくくと半人ふちふふるくむ
つくくさくしふやをかくふを水ふがでれ下ざ為ふ人ふさやうふ
るむつくくハあくざるをそふくいふさふていつるし
又くやうふもう　日　細流二説の中ふ後の説よろし　独の説ふ云ざくし
いくよう如ふかくを形ふ分ふ　日　文をうをどうくさづうはるうくの二つを
合をていふしくやうふ如ふ中ふ身ふ為ふてふくはぬふくはをよくかくし

て男おとゝ〳〵つまれぬし。俗ゝふ。ちがを見をゝいふこし。俗ふ。ひざ〳〵
しをたゝ〳〵ハさぬし。こいつハ〳〵ぐつ。さて物ゝ見とゝいつてこハ。そべ〳〵
学中ゝ女ゝ。おゝとて〳〵ゝゝゝゝ雑わるが。多ゝ。和ゝ。右のごゝ物ゝ。
そゝをよゝ〳〵もてゝゝをそぞやゝいふこし。
ゝゝとなせをたゝごゝ〳〵 日 此所いひざゐむつゝ〳〵くして。ふゝんゝ。
ゝべてゝゝをよゝ〳〵ゝて。さゝるべゝ。まゞわざゝ〳〵ハたゞゝるさ
まふゝゝる沢いひて。ぐふわざし〳〵いふゝハ異し。さて和やゝ〳〵ふ。
女ゝ〳〵き女ぞゝ〳〵ゝえゝバ。さやゝうゝ女ゝ。ゝ。ゝんよゝ〳〵。あゝゝるさき
ふ門ゝゝ〳〵ゝ。ゝゝるゝふ。おのづゝ〳〵。ゝゝゝゝ。たゞゝるゝ
ゝゝ物ゝゝ〳〵ゝゝるゝものぞゝ〳〵いふし。 細流ふ。ゝゝよゝて見れハゝ〳〵

ゝたゝるハ。ゝゝ〳〵き。俗ゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝゝ

味ひ。よく味ふべし。

おくきふきをくるかるかくてもうく　日　扇のあつまりあるるくうくけやう

ある。風流のうハ。まのうしろくけうあハ。たくてもよかるべきがめくなれど

もとくし扇のあつまりとハ扇のつつまるとしのふるまひまるをいふ。

又まんくたきうく　日　又くいふ何。下ふいうハくちをくかくうくんと

いつくへうきて見べし。風流なる方ハなくてもよかるべくくとくしうまうど。

又さやうふもつかうびのうくて。あるよしにいひつづるし。ほふ又くいふ何

をつかくんとうとうまりあるふ程くせるハ侍らし。

みくちさきがちか　日　左へけ如きを。髪にくくふ。額髪（ヒタヒガミ）として。左右ふ。

耳よりあへもくゆくて。ゆるをかくちにつろふ如き。耳より前へ

くゆくくく髪をくふくさくむつくくにひて。耳のうしろへいつくて。

耳ふたきむをいふ。或扇侍ふ。ゆきをとどこくもちらひること

くゆくくみくちさくくにして。くくいふ。此扇侍。紙等ふ正三位くつをとどこ。ひろをくをぐくし。

ぐさくゆき　日　貧相なるくいふをぐくてし。侍きふ。安美相くきるハ。貧

おくりハやくくれど。ゆくの別くとゆるべし。

恥ゆくじ　日　力自（トジ）を。言張ふ。くくじくいふし。言ふけくふハくぐ。ゆの

書室のくくなり。

きくゆきぐひるべくくむくり　十二の巻　むつまくくかくくゆ書の。扇乃あ

くををくくし。やくけくるのくくふをもゆるきて。分別あくんくり。

うちもとまき　日　かくてそうしひきて書けり。こちかきてはゆひて。ゆ
ゑしひもきゑ。又いとうしひかきてゝとゆひて。後もさゝぐべし。後はしぶり。
おわや　宮ちぐ　ぢ　ぢ　日　おのゞ身ゆをかづゝぬ。人のえりるゆゝ
ようゝ　ぢて。ぢゝゝゝ

ゆくさきに紙を置きてまべきこゝろぜひしてハ紙を置きたるし。さて人〻出立ちい
ゑ。ゑとりごとをいふ。皆書り後にもかひあるべきがなし。宗祇法師
あるれ永ながうくいつる。又むかしこゝろいつるべきおハあり。
ちふごとぞ時ど。日 夫のそのさ風流書けるて。そ是ハ行すぞ時どいひてし。
ゆのをつふ。日 伊海ふ。浦〻しにしとをり。俗ヨりいふをやう時〻ぬるを。
さ〻ゆふぎめを。うちち俗のき長るあて。あをつ時るさ風をいつし。
いづハくちをかゝぬ。日 くちをきり。つゝいつる何し。ちゝが中ふ
ゝ〻いふちゝこもすぐし。一つぐきし。
こゑをきて。日 おゆやう時をいふ。花ちふをを時ど風しにんし〻ゝて。
ふゝ何ふ。むさめちふ。ゆめきてし〻いつる。ゝ。祝ゑ〻ふ對ひる

何し。親をよろづふあめちあつうひをちをを。ふい。親ふをゝぐひて。親のを
ゑまふ。大やう。をしあるをし。
ちかゝ。初きつゝゝひて。日 しゆゝいぬるをバ。男ちゝをきて。ゝりつゝゝふ
ちり。俗ふ。長ゑ時ど。をしいつるふ。ゝぐり。
ゝゝもゝ時〻。日 をべて此何を。他のいつゑをある。ゝ。かゝいうをゝと。時ふ
やゝめをを。おゝをきを待。ゝふいふ。をゝを。皆俗ヨふいふゝハおゝちを
ちり。ふふ。男ふ引つゝゝを。ゝゝ。ゝどの女をバ。ゝいつるハ俗ふいふをゝ
ゝゝるふや。
ぞふゝ〻むひて。ゝ〻。日 けぞふゝいふゝちつゝひぞ。ゝゝゝむつゝ。ま
づをゝ〻。諸をひゝるゝ。ふつきていつゝ。

ゐもちをかとてハ 曰 別(コト)あゐ雑ものとしるるほどし。
あんしゝびうるてをかく 曰 夫の助ものゝうゝび。あんしゝそびひたてもること
うかたぐるをいふ。
ゐきいつるわかるんを 曰 ゐふ功者(コウシヤ)ものきゝいつゝこと。
いゝくちをゝく 曰 ゐふ。ものゐいぐハくちをゝかゝをいふとゐていつり。
くいつゝいぐ。上ものかの何とうをるゝこかゝ。
ゐのゐもをゐをかき 曰 立をかとゐる時。ものんゝ。ゐとゝゐるゝこうとゐぐる
ものをゝかゝふゝがゝきし。とがハ咎ものゝ。雑(サヒ)といふゝし。
ちゐくゝかゝん 曰 ゐふ。ちゐ。ものきゝうゝ。よゝハけゝものゝゝぎな
きゝがをかゝゝかんゝしといふハ。ものゝふ問。ゐをとゐるし。ひゐ

ゐをぐふ。ゐをゝとゝをふいつゝこ形ゝ。こゝハうちゐをゝかきゝをゝふく
らべゝいつゝふをゝつゝび。ものゝいつゝハ。ものをきやをゝゝうかるハ。ようけをど
ものをもかゐ。ものゝ。やをりまぐけをし。ゐきゐ雑へるがぐゝ。くる
ゝかゝんを。ゐをふちんぎかるゐものをゝうんゝいふをし。
をぐゝくゝ。 曰 ものゝ組ふをゝくゝゝ。をゝゝかゝぬしといつゝ。ものゝ。
細腐ふを形ものぐけ。ようをもをきふをゝゝいつるハいぐ。をゝ形ものぐさし
ていふべきふゝゝび。をゝこゝ。男けんふ。をぐゝ。をゝ。んづきかゝゝ。ものも
ふし。ものハ方らゝ。をぐゝゝ。ゝゝ。ゝ。ものゝ。ゝゝ。ものゝ。ゝゝ。ものゝ。ゝ

くゝよく知ていふるなるもじどもし。ほふりりきんといてゝ。がてう。
さぶえかもて 曰 上件かいてるさぶゝ女をきべゝいづもをゝと
も。宣えるあるし。ほふゝぐ此上の二経をのをりぎているかれるぞ。
志ふもようじ 曰 花ちふ。三界唯一心うゝのんしというゝ。ゐがてる
てし。るもされぞかやうれよりおきてゝ引ゝいふぞや。
徳ぢきゞ女しれるゞ 曰 此紙。老ゝ所ゝふてゝを会きて考ゆ
ふふ。人のんふもりも。所ふもりも。志ゞふもあも。きべきまゝふ
直ゝびして。ゝゝまゞるゝし。伝ふ和のまがるを。孫ぢも
ゝりとふて。もも曰ふて。ともあへも。ほふほきゞがし紀人を
いふといるゞ。伝宮ふてるゝて。えがゝし。

志づゝ所んのおもむき 十二の之ゝ かゝぐゝし。初ゐんをいふ。
ゝるべ 曰 毋ひもむ女をいふ。ほふ本書しといるゝ。ゐがてる。法ゝ
つひのしまゝ所ゝいるぞ。本書所ゝ。
ゐまりれ也志ゝんぢせ 曰 也志ゝれゝる。上ふもいるゞゝ。伝ゝぞふ
もゐも。えゝ者ゝるべき毋ゝゐゝと也志ゝと。ゝきもいるし。
んぢせうちゝへゝゝんをバ 曰 ほふ。美のゝふ乳のつくやうれんゝと
いるふいゝゝきえゞゝし。うちゝへゝ也志ゝゝを会をている伺ゝ
ておまりれゝいるゝゝとし
ゝ伝ふ。伝ふいふえゝひ和のゝし。いひ。ゝゝ伺ふ。
まゝを和ゝいふゝどの伺し。ゝいるがめ。 伺月師伝ふ。ゝまや

ふもづら形ろうへふ。うゝもそやゝ塩恵ちべゝ。ゝしゝいてハい。くゝぐ
ゑり。けよ縁こびふゑひてこいふ何を行ゝんゆゝるふう。
うしろやちゝのどきに取ゝどふつゝゝハ。日。こゑ所ケ上の。柏まえやうう。
ちづら形ゝんの銀ゝいゝるものし。
ゝゝいふべきゝゝと。日。うゝゝゝハ用ちふゝもむべゝ。細流ふ。縁流八
文を引ゝゝ。ゝゝふうゝゝぬゝゝし。
見ちゝぬゝまふ。日。恨むべきるゝろとちゝぬゝ義ゝてうるし。
うへゝつゝと形ゝ。日。ゝ兵。俤のゑゞゝ。
みゝをたゝう。日。みゝをふもてつゝてもいてう。ゝゞゞぬやうふんゝたた
きてゝもてつゝゝし。

ゑる先ゝよへふ。日。男のつゝゞぐゝゝ。ゝゝふきんゞゝをバちゝぬあやゝふ。
ゝゝうゝてゝ南をふゝゝつゝきゝゝきゝてもし。
ちゝ言ゝ地ゝひふゝる。日。ゝゝゝるゝふゝてゝひふ離別ゝゝもあ
ゑをいゝう。
うゝ続ちゝみぬゝゞ。十三のひゝゝゝゞ先んをゝふゝひあゝわるゝゞ
のゝふゝゝちゝむし。
やゞて危ふかわゝぬ。日。あゝを先ゝうゝ。ゝふ。ゝふ。ゝふ

ゆるごとち　日　古き女房どもし。この海ふ後浮き、泥引ぐ、と拵き
ゐいてがごとし。
ゑのはんち　日　ゑくハ、ひと女の男ぱいてるし。
ゑくひぐ、ぐ、ぐ、きさぐりて　日　わく、髪をそぎ、そ、そ、よく後悔ち、
き女ばかり。
やぐてうひそひてそのゑひいぐ、ち　日　一かふやぐてはアふうひそひて
くいふおとばわるぐ、ち、ふくき此泊すてハやぐてくいふく、ち、ぐ。
御月はかふ、此ち拵きハ、泊、ち、はアるあるかり、ぐづ、りくとゑひ
てさうくらふちぶ、ちるあや、又一かふ、そのゑひ出くいふちわ、うくち
ちくとくいふまでは七もぐはきハわひそひてくいふ泊の二つわ

ゑうくらわて、その中るは（アヒダ）俗をえおそ、て、おちくちし、此俗ぐちくかく
てちゆすぐ、やぐてわひそひてとハ一ちびちゆきくく後、男はんのかた
ぐもべきあり、もかくて、そ、ゆきくゆて、又うてわひそふし、その
ゑひ出ち、さたふちゆきてしあを出くるぐ、ゑひ出ちをいふ。
なのちふうちふ　日　この女の名ち、ゆくふうちふはわくでいぐち
さうちうふまし。　ちわぐかくいふ泊、かくくあり、又ゆち泊り。
かのちうくしてくいてハ、ゆちわは女をかちぐりふとちうちうハ遠わ。
えちゆくんぐいちわくくゑぐ　古のひく　くく泊ふ女の男をいくわく
くゑぐのちふいてるハ、ぐ、わり。男はんわ、女をいちわくくゑぐし。
ちうかくはちゆちゆ　日　えちゆ、ぐ、ぐ、ぐ、いちわくくふ方はちをぐし。よ

をゞとハ、あひそむ面をいふ。そべてよるべ又よそがいとかたくいう事とん
はしるハ、ものづかひ。ふしとも本書あをかぎしぐ。
しものぢろきふ　曰　初きさぐんしといつるほうろし。俗ふ。さやうはぢさく
ふ〳〵いふうかわり。しものこ何の徒ろ侍し。
ようげのろすちぐしふ　曰　俗ふ男ふ対とる新食んぐへまでといつるわか
なりぞ。ようげのすとハ。あはすをいふし。
ろんぞべきすをバうゝうむべうむふ〳〵ゆとうゝ　これ曰ぐるすはこつ
立ちかて。ゆあふつきて。ほうゝ〳〵ふうう。ろんぞるハ。ふうゝ〳〵
ふあて。うゝむべうんゆ〳〵ハ。恨をいふべきふ〳〵。ふふふうとゝ
ふいふうゝをゝ。つふあていつるし。えをるるあふを。しをゝ何ふえてえ

ぬふあふしといつふ。うゝゝ人の遠ひし。
ゝをふつ立て　曰　世下ふ。ふあてとゝいふ。ゝ加へゝ。ふ比べ。
ふゝる人うゝ　曰　ゝて女の。ふへゝらひうゝふよあてし。をさまるハ。他へうゝ
ゑんのやむをいふ。
ほなぐぬ舟ち　曰　河海ふ。文選を引きゝるハ。本し。ゆとぐとゝハ。白氏文集
の偶吟詩ふ。無情水任方圓器不繫舟隨去住風といつるをそう
て。まほし。さて。ぐふふうやわしハ。ぬ本文ふかゝていつう。
しものもぎわきうゝぐひ　に　女のふぐぶふして。他へんをるるやうはうとがそ
しはるふうをいふ。ゝみ何ふ。ふうまり男ゆゝ。ゆゝて。ものもゝぐわ
きゝいつゝぐ。又々軌上のゝふあてゝゝゝ。ゝ。又ほぎ集めを

をゝ〜ゆゝしうおそれ此方へ参内給ふる事ども
さ〜なれ〜てと 曰 こゝはなをゆゝしきてゝおもをおもゝ〜しいへ
ゆゝ〜ゆやまちおもてゝえさて（赤）雪〜〜しむる男ゆゝ方ゆつきていへだし
そもかゝくもゝるゆゝあべきゆゝ〜ゆゝ〜むをゝ〜 曰 ほゝ業上ハゝ〜〜いへ
ゆゝ〜ゆゝゆゝ〜〜ゆゝ〜〜ゆゝ〜〜

らぬ。人のうれワきてそこいふこゝし。ゝゝなふうりき人ゝとゝ
て。善人しゝいてハしるぶて。又けてゝぶ沈。花をふ香童の名茅好名
おぐしゝとうゝもいぐ。行ゝ好ぐゝさしていふべきふわゝび。又けゝぬゝへ
を。人の本意ふなるべき人ハゝとうるほもゝぬぶて。ゝゝとふゝあ
らぐ。しぐゝらとハ寒好る女のゝゝへゝるをや。
ゝゝみぐれ　日　彩色をゝるゝゝふ封へゝゝぐ絵とかゝゝゝ沈いつゝる名月し。
ゝへハ。絵をゝれて。彩色をバぐちふ他人（コトヒト）ゝをゝゝるゝゝゝゝゝ二つふ
ゝて。墨書（スミガキ）ゝゝ絵ゝいて。ゝゝゝゝゝハ彩色ゝるをいふし。景絵
彩色絵ゝいふゝふハうゝび。絵麿ゝ。このゝゝ絵上ゝふゝめゝふ校
絵ものゝゝゝぐを。ゝて。絵ゝゝゝゝゝ

ちゝはかくをとかくをいふなり。加へてゝんなるべし。

特ぎちわちんしらりゝる　曰　こゝとハ上件の三つのこゝろへをこゝろべていふ。三つ

のこゝろへこゝを用ゆるこゝろ。女の。なよ〳〵しなだめるこゝろべの好こゝをとゝ。寒好

ゑゝのこゝろへなり。ほふそのこゝろ好る方好しゆこゝへと。本書こゝろべき如乃

こゝへをどりこゝふことゝなり。又宗祇法ふ。源氏ゑ以中ねもゝ。ゑをもれ

つゝどちわふべきこゝろ〳〵いへをどゝ。こゝることハ好し。ふゝふ志ひゝ〳〵ゝ書

のこゝふゝ好へきこゝろ。ひゝ好ものゝ志人の。うゝぎき好きゝせしう。